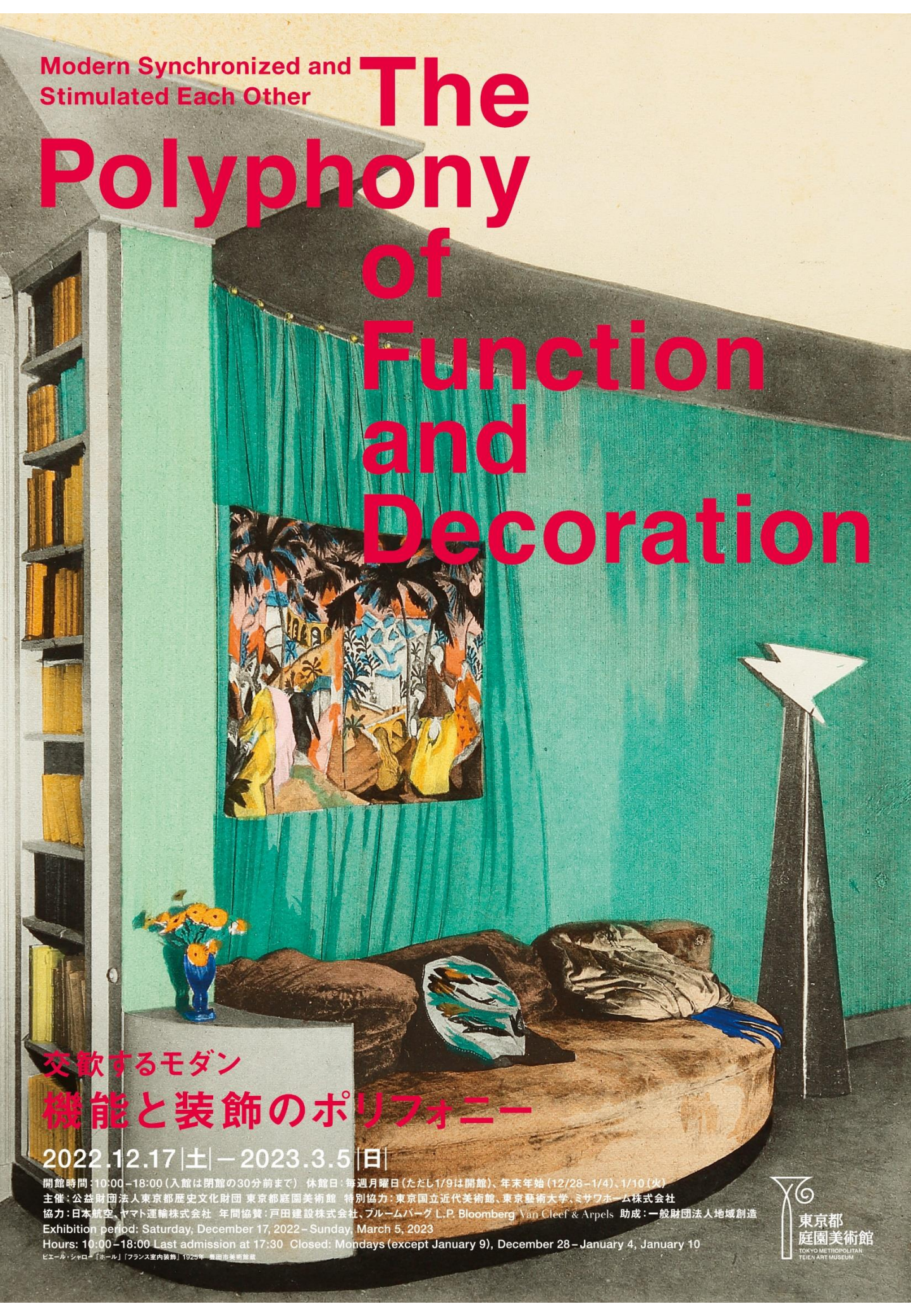
Modern Synchronized and Stimulated Each Other

The Polyphony of Function and Decoration



交歓するモダン
機能と装飾のポリフォニー

2022.12.17|土|－2023.3.5|日|

開館時間：10:00–18:00（入館は閉館の30分前まで） 休館日：毎週月曜日（ただし1/9は開館）、年末年始（12/28–1/4）、1/10（火）
主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館 特別協力：東京国立近代美術館、東京藝術大学、ミサワホーム株式会社
協力：日本航空、ヤマト運輸株式会社 年間協賛：戸田建設株式会社、ブルームバーグ L.P. Bloomberg Van Cleef & Arpels 助成：一般財団法人地域創造
Exhibition period: Saturday, December 17, 2022 – Sunday, March 5, 2023
Hours: 10:00–18:00 Last admission at 17:30 Closed: Mondays (except January 9), December 28 – January 4, January 10

ピエール・シャロー「ホール」「フランス室内装飾」1925年 豊田市美術館蔵

東京都庭園美術館
TOKYO METROPOLITAN TEIEN ART MUSEUM

プレス関係各位

この冬、東京都庭園美術館では、「**機能と装飾のポリフォニー**」展を開催いたします。

本展覧会は、豊田市美術館・島根県立石見美術館・東京都庭園美術館の三館を巡回するものです。各館の特色あるコレクションを核としながら、1910～30年代の絵画や彫刻のみならず、家具やファッション、デザインなど約400点をご紹介いたします。当館においては、同時代建築である本館（旧朝香宮邸）の空間とのコラボレーションも見どころの一つとなります。

ぜひ貴媒体にて本展のご紹介を賜われますと幸いです。

展覧会情報

展覧会名称

和　文　　交歓するモダン　**機能と装飾のポリフォニー**

英　文　　The Polyphony of Function and Decoration　Modern Synchronized and Stimulated Each Other

※タイトル表記に文字数制限がある場合は、「機能と装飾のポリフォニー」のみの表記が可能です。

会　　期　　2022年12月17日（土）–2023年3月5日（日）

開館時間　　10：00–18：00　＊入館は閉館の30分前まで

休 館 日　　毎週月曜日（ただし1/9は開館）、年末年始（12/28-1/4）、1/10

会　　場　　東京都庭園美術館（〒108-0071　東京都港区白金台五丁目21-9）

入 館 料　　一般＝1,400（1,120）円／大学生（専修・各種専門学校含む）＝1,120（890）円

中・高校生＝700（560）円／65歳以上＝700（560）円

本展はオンラインによる事前予約制です。

※（ ）内は20名以上の団体料金　※小学生以下および都内在住在学の中学生は無料

※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者2名は無料

主　　催　　公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館

特別協力　　東京国立近代美術館、東京藝術大学、ミサワホーム株式会社

協　　力　　日本航空、ヤマト運輸株式会社

助　　成　　一般財団法人地域創造

年間協賛　　戸田建設株式会社、ブルームバーグ L.P.　Bloomberg　Van Cleef & Arpels

会場情報

東京都庭園美術館｜東京都港区白金台5–21–9

［目黒駅］JR 山手線東口／東急目黒線正面口より徒歩7 分

［白金台駅］都営三田線／東京メトロ南北線1 番出口より徒歩6 分

TEL. 050-5541-8600（ハローダイヤル）03-3443-0201（代表）／ FAX. 03-3443-3228

Website　www.teien-art-museum.ne.jp　Follow us on Facebook, Twitter, Instagram@teienartmuseum

展覧会概要

国やジャンルを超えた共鳴から生まれる、いくつものモダンの形

1910年代から30年代は、西欧を中心に日本を含む世界各地で様々なモダンの形が現われた時代でした。

機能主義に基づく「モダニズム」は、いまなお当時の中心的な動向とみなされていますが、一方で、大衆消費社会が進展したこの時代は、常に新しくあるために装飾することに価値が置かれた、儚き「モダニティ」の時代でもありました。実際、この対立的に捉えられることの多い二つの「モダン」はいくつものモダンの形をうちに含み、それらは複雑に関係しながら濃密な時代を作り上げていたのです。

当時の作家たちは、時間差なく情報を共有し、国やジャンルを越えて同期し合い、その範囲は、絵画、彫刻から、家具、食器、洋服、さらにそれらを収める建築や都市まで、いわば、私たちの生活空間、身体活動全般におよんでいます。

ウィーン工房は、フランスのファッションデザイナー、ポール・ポワレと刺激し合い、一方で、ロベール・マレ＝ステヴァンなど同国のモダニストにも影響を与えました。その生活全般への眼差しはまた、日本の森谷延雄や斎藤佳三にも共有されるものです。同時性絵画で知られるソニア・ドローネーはファッションの仕事に専心し、ルネ・エルブストらモダニストは都市を彩るショーウィンドウデザインに大きな関心を払いました。そして、バウハウスでは女性作家が織物に新たな光を当て、また同校を離れた作家たちが、ブルク・ギービッヒェンシュタイン美術工芸学校を舞台に応用芸術教育に取り組むことになります。

1914年に勃発した人類史上初の世界大戦が象徴するように、この時代の最大の出来事は世界が一気に同期したということでした。その急速に変化する社会のなかで、作家たちがときに交わり、共鳴しながら探求したいくつものモダンの形を紹介します。

【100字紹介文】

1910-30 年代のヨーロッパ及び日本において、芸術家たちが国もジャンルも越えてさまざまに交流し、装飾芸術・モダンデザインが展開した様を紹介する。国内三館による共同企画で、各館の所蔵品を積極的に活用する。

カタログ

『交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー』展 公式図録

ミュージアムショップ、書店にてお求めいただけます。

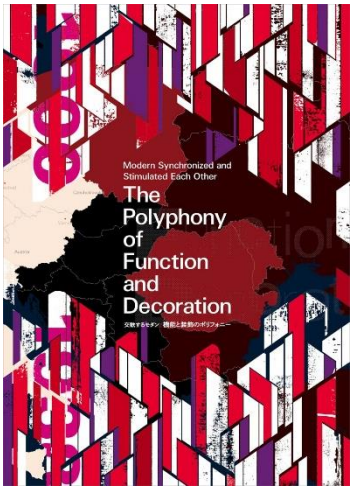
ーーー

価格：定価：3300円（税込）

出版者：赤々舎　判型：A4判

ページ数：344 ページ

各種専門家の多彩な論考を収録し、400点を超える豊富な作品図版を掲載した大ボリュームの一冊です。



展示構成

Chapter **1** ：1900-1913

1-1　ドイツ応用芸術とウィーン工房の転換期

1-2　ポール・ポワレとウィーン工房

1-3　ポール・ポワレとフランスファッション

1-4　フランスにおける室内装飾の新傾向

Chapter **2** ：1914-1918

2-1　ダゴベルト・ペッヒェと大戦期ウィーン工房

2-2　フランツ・チゼックとウィーン美術工芸学校

Chapter **3** ：1919-1925

3-1　女性作家たちのウィーン工房

3-2　日本における生活改善運動

3-3　フランスにおける新旧室内装飾

3-4　戦後フランスファッションの展開

3-5　都市芸術　通りの芸術

3-6　装飾と抽象

3-7　初期バウハウス

Chapter **4** ：1926-1938

4-1　デッサウ以降のバウハウス

4-2　バウハウスから離れて

4-3　UAM:フランスのモダンデザイン

4-4　ファッションのモダニズム

4-5　日本におけるモダンデザインの動向

巡回情報

本展は以下国内三会場を巡回します。

（1）豊田市美術館　2022年6月7日（火）～9月4日（日）**※会期終了**

（2）島根県立石見美術館　2022年9月17日（土）～11月28日（月）**※会期終了**

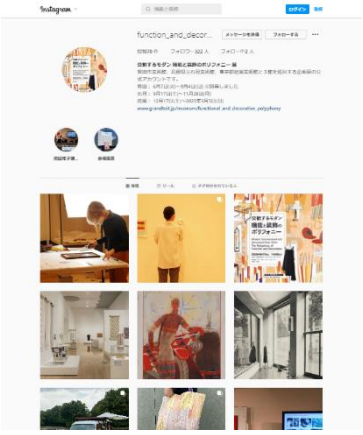
（3）東京都庭園美術館　2022年12月17日（土）～2023年3月5日（日）

※本展では、会場ごとに展示替えを予定しております。
作品保護の観点から当館には巡回しない作品もございます。
悪しからずご了承ください。

展覧会特設Instagramのアカウントはこちらから

function_and_decoration

作品の紹介や準備の裏話などここだけの特別な情報を発信しています。



TOKYO METROPOLITAN TEIEN ART MUSEUM

PRESS RELEASE Vol.1.3 2022.12

1．アトリエ・マルティーヌ／ロジーヌ《香水瓶「本物のオー・デ・コロン」》1912年頃｜海の見える杜美術館
2．ジャンヌ・ランヴァン《ドレス「ローブ・ド・スティル」》1926–27年｜京都服飾文化研究財団
3．ヨーゼフ・ホフマン《センターピース・ボウル》1924年｜個人蔵
4．ピエール・シャロー《フロア・スタンド「修道女」》1923年｜東京国立近代美術館
5．ポール・ポワレ《ガーデン・パーティ・ドレス》1911年｜島根県立石見美術館
6．ピエール・シャロー「ホール」『フランス室内装飾』1925年｜豊田市美術館
7．マルガレーテ・ハイマン＝マルクス《ティーセット》1930年｜宇都宮美術館
8．アンドレ・グルー（デザイン）、マリー・ローランサン（絵付）、アドルフ・シャノー（制作）《椅子》1924年｜東京都庭園美術館
9．エドゥアール・ベネディクトゥス『ルレ』1930年｜東京都庭園美術館
10．ジャン・デュナン《コンパクト、タバコ入れ、バックル》1925年頃｜京都服飾文化研究財団 畠山崇撮影
11．リリー・シュルツ《茶筒》1928年頃｜宇都宮美術館
12．マルセル・ブロイヤー《クラブチェアB3（ヴァシリー）》1925年｜豊田市美術館
13.グンタ・シュテルツル《テキスタイルデザイン：絨毯》1929年頃｜株式会社ミサワホーム
© VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2022　B0612
14．斎藤佳三《「想ひを助くる部屋」飾窓》1927年｜東京藝術大学

1　2　3　4
5　6　7
8　9　10　11　12
13　14

お問い合わせ先

東京都庭園美術館 （〒108-0071　東京都港区白金台5–21–9）TEL. 03-3443-0201

ウェブサイト：https://www.teien-art-museum.ne.jp/　メール：press@teien-art-museum.ne.jp

展覧会の内容に関すること　学芸担当：大木、田村

掲載依頼・取材等に関すること　広報担当：板谷、斉藤